教材研究ノート№3-A-10

①本時を構想する上でポイントとなる素地

○問題解決のための知識・技能

・九九計算，わり算，何十，何百×1位数の計算方法を理解している。

○既習とつなぐ見方・考え方

・かけ算はたし算で表せることや，数を分解してもよいことを学習している。

○共同追究でのゆさぶり

・2桁×1桁の計算は，2年で簡単な場合を学習している。

○ゆさぶりに対応する経験

・12×4の計算で，12を10と2に分けて計算している。

≪学習問題≫

１枚23円の色画用紙を3枚買うと，

代金はいくらですか。

≪学習問題≫

主眼

授業計画･実施記録

②見通し:ちょうどの数ではないから，かけ算で計算できない。

→23を分けて考えれば計算できそう。

②学習課題:23をいくつかに分けて，九九や今まで習ったことを使って，式や絵や図に表して考えて説明しよう。

１　課題とまとめを一体のものとしてとらえるには

③個人追究:23を分解してたし算やかけ算にし，計算方法を式や絵や図，文で説明する。

④共同追究前半（解法の比較検討）

「どの求め方にも共通していることは何だろう？」

→「23を求めやすい形に分けている。」

④共同追究後半（思考を深める）

「23を20と3に分けて考えてもいいのだろうか？」

→「23＝20＋3で表されるから分けて考えてもよい。」

「たとえば8×3で考えると，8は2＋6になるから2×3と6×3をたすと24になる。」

⑤まとめ（児童生徒の言葉で）

・23を計算できるように分けて考えれば求められる。大きな数になってもできそうだ。

・数を分けて考えてもよい。

・

⑥定着･活用問題

自分の求めやすい方法で次の計算をしましょう。

(1) 32×3　　(2) 42×2　　(3) 24×3

(4) 11×5　　(5) 34×2

1問だけ途中の計算が異なっている問題があります。他の問題とどこが違うでしょうか。

≪定着・活用問題≫

＜本時の展開に当たっての留意点＞

・「23×3」の式は作れても，計算できないから「23＋23＋23」の累加で解こうとする子どもが多い。これを筆算の式で表して求めた子どもに，一の位，十の位をそれぞれまとめて計算したことを説明させることで，23を20と3に分ける意味をより明確にしたい。

・「分けて，かけて，あとでたす」という計算の原理に着目させることで，2位数をかける計算の仕方を考えるヒントにつなげたい。

【板書計画】